

旧県庁舎跡地「公園、展望所、ギャラリーに」

長崎総科大でシンポ

被爆遺構 旧第3別館活用も議論



旧県庁舎跡地の整備案を説明する李准教授(中央)
—長崎総合科学大

旧県庁舎跡地周辺の都市計画について考えるシンポジウム「都市の記憶Ⅱ」が24日、長崎総合科学大(長崎市網場町)であり、跡地整備の方向性や被爆遺構の旧第3別館(旧長崎警察署)の活用について意見を交わした。

同大の学園祭「造大祭」の一環として、同大長崎平和文化研究所と同大付属図書館が共催。約30人が出席した。

同大工学部の李准教授は、旧県庁舎がある同市江戸町について「長崎の中心のさらに中心。(整備は)都市全体に影響を与える」と主張。跡地は「岬の教会や長崎奉行所西役所があった歴史を踏

まえ)公共性、国際性を兼ね備え、市民が日常的に使える場所にするべき」とし、公園や展望所、ギャラリーなどを兼ね備えた「岬の公園」として整備することを提案した。

また、旧第3別館について「大正時代の建築物としての価値以上に、被爆建造物としての価値が大きい」として、建物の規模に合わせた活用策を求めた。

旧県庁舎跡地を巡っては、県は▽文化芸術ホール▽広場▽交流・おもてなし空間—の3機能を持たせる考え。県と長崎市は27日に開会する定例県議会、市議会ですれぞれ方針を表明するとみられる。(岩佐誠太)